

- (1) 数理解析 0 について — 別紙参照。
- (2) 「数学序論 + 基礎数学」を一体のものとして取扱う。基礎数学の時間に講義をする事もあるし、数学序論の時間に演習することもある。
- (3) 私語禁止。数学的質問は勿論私語ではないので、随時 (私の話している途中でも) してかまわない。
- (4) 飲食禁止。
- (5) 教室への出入りは自由ではない。途中入室・途中退室は自由だが、再度入室する意思をもって退室する場合は私の許可をとってから退室する事。ただし、「タバコを吸いたい」「電話をかけたい」等の理由は原則不許可。
- (6) 携帯電話の電源を切らなくともよいが、講義中はサイレントモードにし、時計機能以外は使用しないこと。
- (7) 再履修の人への注意：履修届提出後の適当な時期に、Renandi にアクセスして数学序論 (河野担当) が表示されるか確認して下さい。
- (8) 大学の数学についての注意。
 - 1) 大学は講義だけ聞いて理解できるという想定をしていない。講義が演習・実験に比較して、同じ時間で単位数が多いのは、講義と同じ時間の予習・復習 (合わせて講義時間の 3 倍) をすることを前提としている。
 - 2) 講義をしっかり聞き、分からない所はその場で質問をするように (もちろん後での質問がダメというわけではない)。
 - 3) 数学 (数学だけではないが) を勉強する時間が少なくなる。大学に入って学習時間が少なくなるというのは変な話だが、調査ではそのようになっている。
 - 4) 内容的にも変化がある。高校では、問題を解くのが中心で、所謂「模範回答」というものが有った。しかし大学では中身 (定義・定理) を正確に (論理的に) を理解するということが中心になる。問題は補助手段と考えた方がよい。
 - 5) 受験勉強の悪影響である「丸暗記」は理解を妨げることが多い。「理解する」ことを基本的に学習を進めることを強く推奨する。
 - 6) 大学の先生は高校の先生程「親切」ではない。学生を「大人」として扱う。自分から action を起こさない限りめんどろは見てくれない。教師を上手に「使う」か否かで学習効率にも違いがある。
 - 7) 次は『数学 7 つの迷信』(小針宏) より—興味のある人は図書館へ (多分あると思う)。
 - ① 数学は難しく、数学のできる人は頭がよい。
 - ② 数学は計算技術である。
 - ③ 記号は文字でなく、数式は言葉でない。
 - ④ 公理は絶対自明の真理である。
 - ⑤ 数学は答えの決まった問題を解くことである。
 - ⑥ 数学は頭の体操として人間に役に立つ。
 - ⑦ 数学と政治は無関係。

なおこれから講義で配るプリントは Renandi から閲覧できる。試験等の連絡も掲示と同時にのせる。